

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

西田 愛

【所属】(助成決定時)

神戸市外国語大学

【研究題目】

西チベットにおける古代チベット碑文の調査と研究

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、インド・ジャンムカシミール州・ラダックを中心とする地域に点在する古チベット語石刻碑文の現地調査を実施し、記述内容の収集・分析とデータベースの作成を行うことである。ラダックを中心とする西チベット地域には、古代チベット帝国時代(7-9世紀)に遡るとされる石刻碑文が多数存在することが知られている。しかし、これらの碑文の現状に関する報告は非常に少なく、報告がなされている場合であっても写真が公開されていないことが多いため、研究資料として利用し難い。さらに、碑文の多くは巨大な花崗岩に刻まれ、幹線道路沿いに点在するという状況にあり、現地では史料としての価値や重要性が全く認識されていない。そのため、近年では、碑文の記された巨石の一部が道路整備に伴い撤去・破碎されたり、建築資材として利用されるなど、亡失する事態に至っている。したがって、一刻も早い現地調査と、現状の記録が必要とされる。

【研究の内容・方法】(800字程度)

① 調査の方法と内容

2018年8月にラダック地方において、古チベット語碑文の実見調査を行った。方法の第一としては、先行研究にて碑文の所在が報告されている地点を再調査し、岩石碑文を搜索した。見つかった碑文については、現地でテキストを確認した上で、高画質のデジタル画像撮影を行った。具体的には、Shey、Shey-smanla、Hibti、Balukhar、Kalatse、Domkharの5地点で調査を実施した。方法の第二としては、最近の考古学のレポートに掲載された碑文の現地搜索を行った。これらは、碑文があると報告されるものの、写真やテキストが公開されていないため、未だ研究の対象となっていない新出の碑文資料である。カルギル地区のKharool、ヌプラ地区のChomolung、Tirisa、Kushwarthangの4地点がこれに該当する。

② 分析の方法と内容

まずは、現地調査から得た碑文テキストをデジタル画像により再確認し、先行研究と対照させた。この方法により、Shey、Balukhar、Domkharの碑文については、先行研究では見落とされていた行や語彙が判読できた。これらのテキストは、現在、写真とともにOld Tibetan Documents Online (<https://otdo.aa-ken.jp>)に公開すべく準備を進めている。

さらに、テキストの解読を進めた結果、収集した碑文は3つのタイプに分類できた。タイプ1は、磨崖仏の脇に記される磨崖碑文で、弥勒菩薩の彫刻目的などが記されたものである。SheyとShey-smanlaの各2点がこれに当たる。これらは当時の王家の意向により作成されたものと考えられる。タイプ2は、ともに花崗岩の巨石に刻まれた岩石碑文で、多くは仏塔がともに描かれている。タイプ2はさらに2つに分類でき、2aは、仏塔奉納型の碑文である。仏塔のイラストを描いた(奉納する)人物の名前や、作成年などを記したものである。Kalatseの6点と、Balukhar、Kharool、Domkharの各1点、Kushwarthangの8点、Tirisaの1点がここに含まれる。2bは、特定の人物の事績が記された事績称賛型あるいは事績記録型の岩石碑文である。Kharoolの1点、Balukharの1点、Chomolungの1点がこれに相当する。最後のタイプ3には、

上記2つに該当しないオムマニペメフム碑文や、破損が激しく分類できないものなどを仮に分類している。

【結論・考察】（400字程度）

本研究により、まず第一に、岩石碑文の破碎、二次利用が現在も進行中であることが確認できた。インダス川沿いに散見される、売買仲介人名のペイントされた建築資材用の花崗岩は、碑文の刻まれた巨石と同種であるため、今回実見できた岩石碑文も未だ亡失の危機下にあると言える。実際に、20世紀初頭の調査では確認されている Hibti と Kalatse の岩石碑文の大部分は架橋工事により逸失していることがわかった。

次に、高画質のデジタル写真を利用して、碑文テキストを校訂できたことにより、新たな内容が読み取れた。この成果を活用し、上でタイプ1と分類した磨崖碑文の全体像と作成年代の再検証を進めている。また、タイプ2aの岩石碑文に見える人名、特に氏族名についても分析を進めており、Kalatse、Balukhar、Kharoolの碑文からは、Rvang-kling という氏族名が検出できた。一方、ヌプラ地区では、Lang 氏の名が発見された。今回の調査結果と先行研究とを総合し、岩石碑文の詳細と関連氏族についての具体的資料として発表予定である。